

第三セクター経営状況

平成23年度第3セクター販売高

単位：万円（四捨五入）

会社名	売上	当期損益	施設管理料等	運営補助
(株)神石高原農業公社	8,159万円	293万円	1,285万円	450万円
(株)帝釈峡スコラ	8,535万円	▲256万円	1,236万円	万円
(有)直売公社 まるごと市場	2億3,469万円	▲356万円	万円	別枠600万円
(有)油木特産販売 百彩館	8,339万円	▲22万円	18万円	100万円
(有)さんわ182ステーション	4億0,243万円	286万円	666万円	



(株)神石高原農業公社



(有)帝釈峡スコラ

- 油木百彩館 売上7%減
 ■生産者の高齢化により出荷量の減少や品揃え不足傾向である。冬から春にかけての端境期には、やむを得ず他地域の産品を仕入れて対応した。食堂は、3月より「暮庵」が営業。
- まるごと市場
 ■売り上げ6%減(店舗11%増 店外19・7%減)
 ■店舗売り上げが伸びた要因
 ①店舗内冷蔵陳列ケースなどの入れ替え・レイアウト変更
 ②イベント実施などで来店客増。
 ■店外販売の売り上げが減少の要因
 ①営業開始時間の変更(8時→9時)
 ②高齢化で来店客減少
 ③生産者の高齢化や天候不順に伴う商品不足など。
- 182ステーション 売上1125・4%増
 ■ローソンや自然食レストランのオープンによる相乗効果で来客数が増加。天候不順による野菜価格高騰や米の需要が伸びた。マツタケが豊作で売上706万円。
- 農業公社 売上9%増
 ■トマトの生産販売は、価格高騰により30%の伸び。トマト工房は、新製品開発により55%の伸び。
- 帝釈峡スコラ 売上10・6%減
 ■来客数減となった。テニスサークルなど大学生の合宿が大幅に減少。そば打ち強化講座やドーム球場でのグラウンドゴルフは好評。神石高原マルシェに全期間出店しPRにつながった。

追跡 ありやあどうなった?

買い物困難者支援事業

源流の里しんさか・草木自治振興会で実施

- ・対象地域Ⅱ新坂地域・草木地域
- ・業務内容Ⅱ移動販売、注文配達、安否確認
- ・対象世帯Ⅱ新坂地域(6世帯)草木地区(11世帯)
- ・実施事業者Ⅱフレッシュ川上(新坂地域)ふれあいローソン会(草木地域)

■成果

利用者アンケート調査の結果、移動販売・注文配達サービスへの評価が、両地域とも「サービスに満足」と答えている人が多く、今後のサービス利用についても、両地域とも利用者全員が「今後も利用したい」との希望があるなど、継続の意向が強い結果となっている。

両地域とも、今後の利用の意向が強く、利用者の満足度も高い。

■課題

今後の課題として、「事業継続のための収支確保」「利用者拡大による経営効率の向上」「事業者のリスク負担(事故、衛生上の問題などへの対処)」「他の「源流の里地域」への拡大などがあげられた。

■総括

現段階での総括として、「収益性の低い事業であること」「今後、高齢化の進行などに伴い利用者が増加することが見込まれる」ことなどから、事業の継続とサービスの充実を図るため、対象地域拡大と事業者に対する支援を検討する必要がある。



ローソン号出発! (平成24年3月)



ご希望の商品とまごころをお届けしますローソン号(草木地域)